



都市とITとが出合うところ

福田 知弘 大阪大学 大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 准教授

建築・都市とIT（情報技術）とは一見遠く離れた別々の分野のように思えなくもない。しかし、情報社会の時代となり、建築・都市とITとは、計画、設計、施工、運用の各フェーズにおいて、互いの存在をますます無視できなくなっている。本連載では、都市とITとの両者が出合うところや課題について、魅力的な国内外の各地をぶらりと街歩きしながら考えてみよう。

第24回 亞洲大学 @ 台中 (2)

台南

亞洲大学で開催された国際デザインワークショップのため昨年11月に訪問した台湾。台中以南の訪問先をご紹介します。

台南は奈良や京都のような古都と呼ばれる。街なかにはレトロとモダンが入り混じっており歩いて楽しい。丁度、プレミア12が台湾各地で開催中であり、街の至る所でテレビが付いており、市民が野球観戦をしていた。台湾チームは、キューバに勝って大いに盛り上がり、翌日はプエルトリコにサヨナラ負けで残念ながら決勝トーナメント進出ならず。

- **林百貨店**：1932年にオープンした百貨店。台湾初の百貨店である菊元百貨店（台北）とほぼ同時期。1988年台南市政府により「市定古跡」に認定され、その後保存修理された。そして、2014年に新しい林百貨店としてリニューアル・オープン（図1）。一般的な商品を扱うのではなく、デザイナーによるお洒落な商品がギャラリー風に販売されていた。上階には第2次世界大戦での米軍による爆撃跡が残る一方で、日本のビルではお馴染みの稲荷神社が祀られていた（図2）。林百貨店の向かいには、1937年に完成した元日本勧業銀行台南支店がどっしりと建つ（現土地銀行台南分行、図3）。
- **正興街**：古い建物をリノベーションして、雑貨屋、カフェ、屋台などのお店が連なるストリート。例えば、「泰成水果店」は1935年創業の老舗の果物屋さんだが、今、有名なのは、南国の果物をたっぷり使ったデザート。店の前は長蛇の列であった（図4）。
- **赤嵌樓**：1653年にオランダ人がこの辺りを統治していた時の砦の跡。1661年に鄭成功がオランダ人を追い払い、承天府という名の行政府をここにおいた。赤嵌樓前のコンビニは景観に配慮した佇まいになっていた（図5）。
- **騎楼**：台湾の街区には騎楼が設置されており一般の人々が通行できる。騎楼は、建物の2階より上階が車道際まで張り出し、その下の1階部分がセミパブリック空間になっている建築様式のこと。暑い日差しや降雨を遮ってくれる。騎楼を歩いていると、合格者と合格大学の名前がズラりとぶら下げられていた。どうやら、学習塾が入る建物らしい。台湾は日本と同じく受験戦争が盛んなようだ。
- **黄金海岸**：台南市街から南西方面。その名の通り、夕日が美しいビーチらしい。夜に行って驚いたが

沢山の屋台が出ていた。11月に訪問したのに日中の気温は25~30℃と、日本では夏の終わりの感じで、海風が心地いい。屋台では、好きな食材を選ぶと、その場で調理してくれる（図6）。浜辺には、大きなパラソルがわざと倒されて並んでおり、パラソルの屋根が隣との目隠しになって、セミプライベートな空間が作られていた（図7）。



図1 林百貨店外観



図2 屋上の稲荷神社



図3 元日本勧業銀行台南支店



図4 泰成水果店



図5 赤嵌樓前のコンビニ



図6 黄金海岸の屋台



図7 黄金海岸



福田 知弘 (ふくだ ともひろ)

1971年兵庫県加古川市生まれ。大阪大学大学院准教授。環境設計情報学が専門。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)。大阪府河川整備審議会委員、大阪市建築物環境配慮推進委員会委員、CAADRIA (Computer Aided Architectural Design Research In Asia) 学会前会長、日本建築学会代議員ほか公職多数兼務。NPO 法人もうひとつの旅クラブ理事、大阪旅めがねエリアクルー。「光都・こうべ」照明デザイン設計競技最優秀賞受賞。主な著書に「VRプレゼンテーションと新しい街づくり」「はじめての環境デザイン学」など。ふくだぶろーくは、<http://fukudablog.hatenablog.com/>

高雄

台南駅から在来線で高雄まで約1時間。台南駅は1936年に完成した近代建築であるが今なお現役である(図8)。

- **美麗島駅**：高雄にはMRTが2路線あり、その乗換駅が美麗島駅。地下1階の乗り換えコンコースには、光之穹頂(The Dome of Light)と呼ばれる、直径30mの巨大なステンドグラスがあり、利用客を楽しませてくれる(図9)。
- **高雄港駅跡**：台湾の北の港町・基隆から南の港町・高雄までを結んだ縦貫線の終点駅跡。1909年から2005年まで使われ、船で港までやってきた貨物はここから列車に積み替えられて各地へ運ばれていった。今は広々とした公園として整備されており廃材を利用したオブジェが点在していた(図10)。隣接地にある倉庫群は、アートフェスの会場になっていた。港町ということで神戸や横浜と雰囲気ややはり似ている。
- **西子湾**：高雄の日中は本当に暑かった。なので黄昏時は気持ちがいい。岸壁では地元民が魚釣り。カフェで水分補給しながら海を眺めていると、大物が釣れたようで大勢集まってきた(図11)。海の幸といえば、ワタリガニが美味しい季節でもあった(図12)。



図8 台南駅



図9 美麗島駅のステンドグラス



図10 高雄港駅跡



図11 西子湾



図12 ワタリガニ

霧峰林家

台湾で著名な一族は5つあり「台湾五大家族」と呼ばれる。その一つ、台中郊外にある霧峰の林家花園へ。上(かみ)林家景薫楼は「台湾議会之父」と称される林献堂の居宅(図13)。博物館では、氏が使用した書物や調度品のみならず、数々の写真、手紙、日記などが丁寧に保管されていた。

池の中にあるステージ「飛觴醉月亭」から迎賓館「五桂楼」を眺める(図14)。以前は橋の延長線上に迎賓館の真ん中の入り口があったが、1999年9月の921大地震で1mほどずれてしまったようだ。当地は921大地震の震源にほど近いため被害が大きかったそうで、迎賓館は壊れてしまい、近年再建されたそうである。

霧峰林家の近くには、九二一地震教育園區が整備されており、大破した学校建築が壊れた当時のまま、保存されていた。敷地内には亀裂の入った断層があり、淡路島の野島断層記念館を思わせる(図15)。



図13 上 林家 景薫楼



図14 霧峰林家花園



図15 九二一地震教育園區